

人文社会ウィーク

Humanities and Social Sciences Week
(HSS Week)

2023年3月6日(月)～3月12日(日)

東京大学
人文社会科学系組織連絡会議

東京大学では、近年、**ヒューマニティーズセンター** (2017年7月)、**アジア研究図書館** (2018年4月)、**東京カレッジ** (2019年2月)、**東アジア藝文書院** (2019年3月)、**現代日本研究センター** (2020年7月)と、人文社会科学に関する新たな教育・研究組織が相次いで発足しています。

これらの組織は、それぞれ、従来の人文社会科学のあり方への反省的視点の上になって、**人文社会科学の新たな可能性**を構想し活発な活動を行っています。

ヒューマニティーズセンター

アジア研究図書館

東京カレッジ

東アジア藝文書院

現代日本研究センター

アジア研究図書館

アジアの資料をむすび、ひらく —デジタルコレクションの可能性—

日時：2023年3月6日(月)
～3月12日(日)
9時～17時

※休館日を除く。

初日は13時開場・最終日は15時閉場

開催形式：展示
(総合図書館1階展示スペース)

言語：日本語

対象：一般

<概要>

アジア研究図書館が作成・提供している**デジタルコレクション**に関する展示を行い、デジタルコレクションの可能性について考えます。会場では、デジタル化した**資料の実物展示**を行うとともに、デジタル画像をモニターで紹介しつつ、デジタル資料を活用した人文社会科学の展開について**パネル展示**を行います。また、学内の学部学生・大学院学生向けに、デジタルコレクションに収録された水滸伝資料の**研究事例**を紹介する**セミナー**を実施します。

<セミナー概要>

開催期日：2023年3月6日(月)

セミナー講師：荒木 達雄 (東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL) 特任研究員)

参加対象：学内の学部学生・大学院学生 (10名)

開催形式：対面式 (展示会場)

参加申込：要事前申込

セミナー (要事前申込) の詳細は、下記のウェブページをご参照ください。

関連 URL：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/event>

*展示は人文社会ウィーク終了後の4月21日(金)まで開催します。

ヒューマニティーズセンター

HMC オープンセミナー 「顔」は何を語るのか：顔貌コレクションの活用と展望

日時：2023年3月6日(月)
17:30-19:30

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：日本語

対象：一般 ※要事前登録

<概要>

HMC 協働研究【「顔」は何を語るのか—過去から未来へ】の**プロジェクト報告**として、**顔コレ** (顔貌コレクション：<http://codh.rois.ac.jp/face/>) の**活用とその展望**について、多分野の研究者にお話しいただきます。

<登壇者>

鈴木 親彦 (群馬県立女子大学 准教授)

「美術史学における「顔」—肖像性と様式分析」

高岸 輝 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)

「顔貌コレクションを利用した人文学研究—「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本を軸に」

<ディスカッサント>

上田 竜平 (京都大学人と社会の未来研究院 助教)

中村 寛 (東京大学史料編纂所 助教)

<司会>

永井 久美子 (東京大学大学院総合文化研究科 准教授)

関連 URL：<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2023/87-collection-of-facial-expressions/>

問合せ先：hmc-info@l.u-tokyo.ac.jp

東京カレッジ

The Future of Higher Education (高等教育の未来)

<概要>

SDGsに示されるような世界的・地球的課題が注目され、パンデミックや世界的な経済の混乱などの課題が重要性を増しており、その多くが、地域的な社会課題と関わりを持ちつつ露見しています。個別の課題解決を目指すというより、前向きでより本質的な社会改革が求められています。このフォーラムでは、このような状況の中で教育機関として大学がどのような社会的責任を果たしてゆくべきかについて、とくに学知を生み出す活動のあり方に焦点を当てて議論します。また、2022年12月から2023年3月にかけて7回にわたって開催する対談シリーズ「The Future of Higher Education」を総括します。

<プログラム>

司 会：味埜 俊(東京大学国際高等研究所東京カレッジ 副カレッジ長)

コーディネータ：Ahmed Bawa

(東京大学国際高等研究所東京カレッジ 特任教授、
元南アフリカ大学連盟 CEO)

17:00-17:05 趣旨説明：味埜 俊

17:05-17:30 対談シリーズ「高等教育の未来」- その総括：Ahmed Bawa

17:30-17:45 大学の役割再考：Dzul Razak

(マレーシア国際イスラム大学 学長、元国際大学連盟 会長)

17:45-17:55 ビデオメッセージ「東京大学における教育の挑戦」：太田 邦史

(東京大学 理事・副学長)

17:55-18:00 討議者1：北村 友人(東京大学大学院教育学研究科 教授)

18:00-18:05 討議者2：細川 尚子

(東京大学国際高等研究所東京カレッジ ポストドクトラルフェロー)

18:05-18:25 ディスカッション

18:25-18:30 総括：Ahmed Bawa

日時：2023年3月8日(水)
17:00-18:30

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：英語
(日本語同時通訳あり)

対象：一般
※要事前登録

要事前登録 https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_itVrWiBbRy6LCw6sBtsxIw

関連 URL https://www.tc.u-tokyo.ac.jp/ailec_event/8688/

問合せ先 tokyo.college.event@tc.u-tokyo.ac.jp

現代日本研究センター

TCJS セミナーシリーズ

日時：2023年3月9日(木)
9:00-10:00

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：日本語

対象：一般
※要事前登録

<発表タイトル>

「世界のコミックス — 江戸時代の^{くまざうし}草双紙の視点から」

<登壇者>

Adam. L. Kern

(東京大学大学院人文社会系研究科 日本語日本文学国文学 客員研究者)

要事前登録 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_I8G1oDG_RfyQ0WgEvN9JyA

現代日本研究センターイベント情報 <https://tcjs.u-tokyo.ac.jp/ja/archives/category/events/seminar-series>

東アジア藝文書院

東文研・EAA 共催セミナー

<概要>

The Tōshōgū shrines, which venerate the deified founder of the Tokugawa clan, were a physical manifestation of early bakufu ideology. This talk explores the use of hegemonic deification and how the Tokugawa adoption of this practice was a reactionary response to the spreading popularity of Yoshida Shinto practices—practices which threatened to challenge Tokugawa power by providing a novel source of authority. Furthermore, although the mention of Tōshōgū generally invokes the central shrine in Nikkō, the Tōshōgū shrines existed in a widespread network numbering in the hundreds. Among these sacred sites, the shrines of the collateral Tokugawa houses have particularly rich cultural legacies and boasted some of the largest festivals in the Edo period (1603-1868). The branch houses of the Tokugawa clan coopted the authority of their deified founder in order to raise their own stations within their respective realms. Drawing from illustrated scrolls, this presentation will culminate with an examination of the different ways in which religious festivals developed within the three great branch domains, where local custom, resources, and ideologies shaped the liminal spaces of festival.

<発表タイトル>

"Tōshōgū as a Source of Sacred Legitimacy: Contradictions of Nested Authority in Tokugawa Japan"

<登壇者>

Ian Blaise Cipperly (Doctoral Candidate, University of Chicago / Visiting Research Fellow, Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo)

日時：2023年3月9日(木)
14:00-16:00

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：英語

対象：一般 ※要事前登録

要事前登録 詳細は東アジア藝文書院のウェブサイト (<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

東アジア藝文書院

コモンスペースをめぐる理論と歴史： 第2回「部屋と空間プロジェクト」 研究会シンポジウム

日時：2023年3月9日（木）
15:00-18:00

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：英語、日本語

対象：一般 ※要事前登録

<概要>

東アジア藝文書院は「**空気の価値化**」という問題に取り組んでいます。これからの時代に求められる「**価値ある空気**」とは何かを考えたときに、人々にとって居心地のよい、前向きな関係性を構築する空気をいかに形作るかが重要でしょう。良い空気を作るためには、良い空間が必要とされています。東アジア藝文書院が目指す「書院」とは、教員と学生がともに思考し実践していく共同体としての理想です。このような「書院」という空間は、大学の中でどのようにあるべきでしょうか。

国や自治体によって管理されるパブリックスペースと異なり、コモンスペースとは、そこに住む人々や関わる人々がともに管理をする空間です。「部屋と空間プロジェクト」研究会ではこれまで、様々な都市の中で、そこに住む人々や建築家がどのようにして自分たちの望みを建築や空間に託してきたか、コモンスペースをめぐる歴史や理論について、文献を講読しながら学んできました。本シンポジウムにおいても、古今東西を問わず、**コモンスペースをめぐる様々な人々の試みを、それぞれの専門の立場から考察**します。それによって、私たちがどのようにして自分たちの場所を取り戻し、愛着を形成するのかを考えていきます。

<登壇者>

白 佐立 (東京大学教養学部 特任准教授)
ジェームズ・サーギル (東京大学教養学部 特任准教授)
片岡 真伊 (東京大学東アジア藝文書院 特任研究員)
汪 牧耘 (東京大学東アジア藝文書院 特任研究員)
梅村 尚樹 (北海道大学大学院文学研究院 准教授)
田中 有紀 (東京大学東洋文化研究所 准教授)

要事前登録：<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZIsdOCpqzwtHd2XOEofU7T33A49NTJrbOAB>
詳細は東アジア藝文書院のウェブサイト (<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

東アジア藝文書院

EAA ワークショップ

日時：2023年3月10日（金）
15:00-16:30

開催形式：
オンライン (Zoom ウェビナー)
対面 (駒場キャンパス 101号館 EAA セミナー室)

言語：英語

対象：一般

<発表タイトル>

"General Education and College Education"

<プログラム>

1 主旨説明 張 政遠 (東京大学東アジア藝文書院 准教授)
2 報 告 張 燦輝 (国立清華大学 客員教授)
3 コメント 高山 花子 (東京大学東アジア藝文書院 特任助教)
4 ディスカッション
司会：張 政遠

Zoom: <https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/83162663300?pwd=VTVtU2JuNkIvaFntZGptY3k3QXQdOdz09>
詳細は東アジア藝文書院のウェブサイト (<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

ヒューマニティーズセンター

HMC オープンセミナー 内外から見た日本の保護司制度 の現状と課題

日時：2023年3月10日（金）
17:30-19:30

開催形式：オンライン
(Zoom ウェビナー)

言語：日本語

対象：一般 ※要事前登録

<概要>

ヒューマニティーズセンター（HMC）のフェローとして研究を遂行されているローソン・キャロル 准教授（研究課題「日本の保護司制度の未来：デジタル化を考える」）、および元法務局保護局長の今福章二氏に、日本の保護観察制度を支える「保護司」制度についてご報告頂きます。

<登壇者>

ローソン・キャロル（東京大学大学院法学政治学研究科 准教授）
今福 章二（元法務局保護局長）

関連 URL: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2023/88-volunteer-probation-officers/>
問合せ先: hmc-info@l.u-tokyo.ac.jp

人文社会科学系組織連絡会議の構成

<p>ヒューマニティーズセンター (Humanities Center)</p> <p><人文社会科学系組織連絡会議の構成員></p> <p>齋藤 希史 (機構長・東京大学大学院人文社会系研究科 教授)</p> <p>水野 博太 (東京大学大学院人文社会系研究科 特任助教)</p>	
<p>アジア研究図書館 (The Asian Research Library)</p> <p><人文社会科学系組織連絡会議の構成員></p> <p>佐川 英治 (館長・東京大学大学院人文社会系研究科 教授)</p> <p>河原 弥生 (東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 准教授)</p> <p>永井 正勝 (東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 特任准教授)</p>	
<p>国際高等研究所東京カレッジ (Tokyo College)</p> <p><人文社会科学系組織連絡会議の構成員></p> <p>味埜 俊 (副カレッジ長・東京大学国際高等研究所東京カレッジ 特任教授)</p> <p>ハチウス・ミハエル (東京大学国際高等研究所東京カレッジ 准教授)</p>	
<p>東アジア藝文書院 (East Asian Academy for New Liberal Arts, UTokyo)</p> <p><人文社会科学系組織連絡会議の構成員></p> <p>石井 剛 (副院長・東京大学大学院総合文化研究科 教授)</p>	
<p>現代日本研究センター (UTokyo Center for Contemporary Japanese Studies)</p> <p><人文社会科学系組織連絡会議の構成員></p> <p>白波瀬 佐和子 (センター長・東京大学大学院人文社会系研究科 教授)</p> <p>ケネス・盛・マッケルウェイン (東京大学社会科学研究所 教授)</p>	
<p>和泉 潔 (総長補佐・東京大学大学院工学系研究科 教授)</p> <p>馬場 紀寿 (総長補佐・東京大学東洋文化研究所 教授)</p>	
<p>座長</p> <p>大橋 弘 (副学長 東京大学大学院公共政策学連携研究部 教授)</p>	

☆2023年人文社会ウィーク主担当組織：現代日本研究センター